

兵庫県のアカハネムシ (兵庫県産甲虫相資料・88)

高橋 寿郎*

アカハネムシ科(Pyrochroidae: Coleoptera)の甲虫は、派手な色彩のものが多く、雄の頭背面の構造が著しいものがいたりして大変面白いグループなので比較的注意をして採集しているのであるが、兵庫県においては瀬戸内沿岸には殆ど棲息しておらず、大体中央部から以北どちらかといえば但馬地方に多く分布している虫のようである。何分充分な調査が出来ていないので現段階で分布がどうか論ずることは無理があるが、現時点で兵庫県下にどのような種がどのあたりにいるかということの概略を報告させて頂きたいと思う。

この科のものは日本産の種類数があまりおらず、そのためその大部分の種についての図説もあるので同定はそれほど困難だとは思われない。ただ雌の特徴が微弱なため色彩・体制の近い種間の判定が案外難しい。

日本産のこの科の研究は、G. Lewis が“On the Pyrochroidae of Japan”(Ann. Mag. Nat. Hist., 5, XX, pp. 165-173, 1887)と題する論文を発表。その後、河野広道博士が多くの図の入った名著“日本動物分類、赤翅虫科”(1936)を発表され、中根猛彦博士が原色昆虫大図鑑、第2巻、甲虫編で図説され(1963)、同時に日本産の種を解説をされた論文“日本のあかはねむし”(昆虫学評論, 11巻, 2号, pp. 59-66, 1960)が主要なもので、その他に若干の研究論文があるが、以上の文献でほぼ兵庫県産は同定出来る。

一般にこの仲間は、幼虫はすべて食肉性で樹皮下もしくは枯木の中で発見される。アカハネムシとミゾアカハネムシの幼虫の記載は河野、西尾両氏の報文があり(台湾博物学会々報, 33巻, 242・243号, pp. 566-569, 1943)、オニアカハネムシの幼虫と蛹の図説は大沢氏の報文(生態昆虫, 2巻, 4号, pp. 7-10, 1947)、オオクシヒゲヒロウドムシの幼虫については林博士の報文(Ins. Mats., 26巻, 2号, pp. 108-114, 1963)があり、さらに林博士はツチイロヒロウドムシ、オオクシヒゲヒロウドムシ、アカハネムシ、ムネアカクロアカハネムシ、ウスイロアカハネムシ、ムナグロオニアカハネムシ、ヒメアカハネムシ、オニアカハネムシの9種についての幼虫の記載をされると共に、それらの検索を示された労作を発表されている(昆虫, 37巻, 4号, pp. 444-452, 1969。日本私学教育研究所調査資料, 72, 1980)。日本幼虫図鑑にも、上記の種のうち3種の幼虫が図説さ

* 現住所 〒652 神戸市

れている(1959)。

以上のように日本産アカハネムシ18種のうち10種近くの幼虫が知られている。ただ残念なことに生活史、生態についての調査報告のようなものが殆どない。このあたりまだまだ未解明の部分が残っているようである。

尚、兵庫県産のアカハネムシの種を紹介するにあたり全部が中根博士の原色昆虫大図鑑に図説されているので形態などの説明は一切省略した。

Family Pyrochroidae アカハネムシ科

1. *Pseudodendroides niponensis* LEWIS オオクシヒゲビロウドムシ
本種は少ない種のようなものである。
産地：宍粟郡波賀町音水(1♂, 20-VII-1959)*。養父郡氷ノ山〔高橋, 1975〕。
美方郡扇ノ山〔辻, 1963., 辻, 岸田, 1972〕。
2. *Pseudodendroides ocularis* LEWIS クシヒゲビロウドムシ
次の記録を知るのみ。
産地：美方郡扇ノ山〔辻, 1963., 辻, 岸田, 1972〕。
3. *Ischalia patagiata* LEWIS ヘリハネムシ
本種は摩耶山での記録があるが筆者未採集。割合他種と異なった色彩であるから同定の間違いはないと思われる。
産地：Hiogo, Maiyasan〔LEWIS, 1887〕。城崎郡三川山〔高橋, 1976〕。
4. *Pseudopyrochroa atripennis* LEWIS ムネアカクロアカハネムシ
本種も筆者未採集。次の記録がある。
産地：養父郡氷ノ山〔高橋, 1959〕。美方郡扇ノ山〔辻, 1963., 辻, 岸田, 1972〕。
5. *Pseudopyrochroa brevitarsis* LEWIS ミゾアカハネムシ
あまりいないようである。但馬各地をもう少し詳しく調べてみる必要がある。もっと産地は広いように思う。
産地：神崎郡大河内町川上(1♂, 1♀, 7-V-1977, 1♂, 1♀, 14-V-1977, 1♂, 21-V-1977, 1♀, 4-VI-1977)。美方郡扇ノ山〔辻, 1963., 辻, 岸田, 1972〕。

* 産地で〔 〕のものは文献からの引用、()のものは筆者採集もしくは恵与を受けたもので現在筆者標本所有を表わす。

6. *Pseudopyrochroa flavilabris* BLAIR ムナグロオニアカハネムシ
今のところ宍粟郡の音水溪谷で採集したのみであるが、調査によってはまだ他に産地がありそうである。
産地：宍粟郡波賀町音水（1♀, 3-VI-1973）。
7. *Pseudopyrochroa japonica* HEYDEN オニアカハネムシ
割合多くいる種である。
産地：神崎郡大河内町川上（2♂, 1♀, 7-V-1977, 1♀, 21-V-1977, 2♀, 3-VI-1977）。宍粟郡波賀町原（1♂, 11-V-1979）。音水（1♂, 4-V-1972, 1♂, 21-V-1972, 2♂, 13-V-1973）。赤西（2♂, 21-V-1979, 1♂, 27-V-1979）。氷上郡〔山本, 1958〕。城崎郡三川山, 大岡山, 蘇武岳〔高橋, 1975〕。養父郡氷ノ山〔高橋, 1975〕。美方郡扇ノ山〔辻, 1963., 辻, 岸田, 1972, 高橋, 1975〕。
8. *Pseudopyrochroa laticollis* LEWIS ムネビロアカハネムシ
本種は割合多く産する種である。
産地：夕可郡鳥羽（2♀, 29-IV-1972）。神崎郡大河内町川上（1♀, 7-V-1977, 1♂, 1♀, 14-V-1977）。朝来郡須留ヶ峰（2♀, 31-VI-1975, M. Yuma leg.）。相生市三濃山（2♀, 6-V-1973, 1♀, 20-V-1973）。宍粟郡波賀町原（4♂, 1♀, 11-V-1979）。赤西（4♂, 2♀, 21-V-1979, 2♂, 27-V-1979, 1♂, 4♀, 3-VI-1979）。音水（11♂, 8♀, 10-V-1970, 3♂, 4-V-1972, 1♂, 1♀, 13-V-1973, 2♀, 3-VI-1973, 3♂, 3♀, 21-V-1979）。養父郡氷ノ山〔高橋, 1975〕。美方郡扇ノ山〔辻, 1963., 辻, 岸田, 1972〕。
9. *Pseudopyrochroa rubricollis* LEWIS ヒメアカハネムシ
この種はやや少ないように思われる。
産地：川西市笹部〔仲田, 1978〕。相生市三濃山（2♂, 28-IV-1974, 2♂, 2♀, 3-V-1974）。宍粟郡波賀町原（2♂, 11-V-1979）。音水（1♂, 10-V-1970, 1♀, 21-V-1979）。氷上郡〔山本, 1958〕。養父郡氷ノ山〔高橋, 1976〕。美方郡扇ノ山〔辻, 岸田, 1972〕。
10. *Pseudopyrochroa peculiaris* LEWIS ウスイロアカハネムシ
筆者未採集。次の記録あり。
産地：美方郡扇ノ山〔辻, 1963., 辻, 岸田, 1972〕。

11. *Pseudopyrochroa vestiflua* LEWIS アカハネムシ

本種は割合多くいるようである。

産地：神崎郡大河内町川上（1♀，14-V-1977）。宍粟郡福知溪谷（1♀，16-VI-1975，M. Yuma leg.），原（1♂，11-V-1979），音水（1♀，31-V-1970，1♂，21-V-1972，1♂，11-VI-1972，1♀，25-VI-1972，2♀，13-V-1973），赤西（1♂，1♀，21-V-1979，1♂，1♀，27-V-1979，7♂，6♀，3-VI-1979）。永上郡〔山本，1958〕。豊岡市，竹野町三原，大岡山〔高橋，1975〕。城崎郡三川山〔高橋，1975〕。美方郡扇ノ山〔辻，1963.，辻，岸田，1972〕。

以上兵庫県下には11種のアカハネムシがいることを記録出来た。日本産の半数以上の種を分布していることになるが、初めに記したようにどちらかといえば山岳地帯に多くいるようで、南の方の平地のような所には棲息していないと考えられ、特に但馬地区あたりの地元の方々の調査に期するところが大きい。まだ何種かは兵庫県下に分布していると考えられるので、より一層調査を試みたく大方諸賢の御援助を御願いたい。

「六甲山の昆虫たち」発売中！

高橋寿郎・著　　のじぎく文庫・編集
神戸新聞出版センター・発行　B6判190頁
定価1,000円。

但馬むしの会会員でもある高橋寿郎さんが上梓された一冊です。表題は六甲山の昆虫たちとなっていますが、但馬地方の昆虫にも言及しており、一般の人でも楽しく読める内容となっています。一般書店で販売しています。